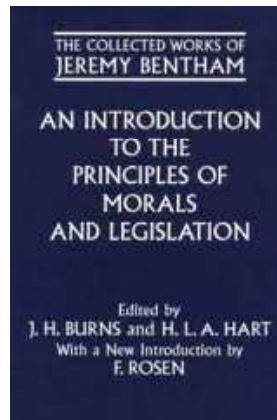
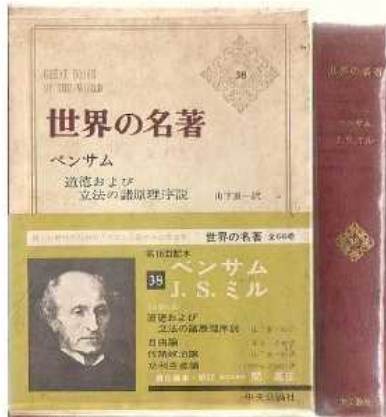


## J.ベンサム (Jeremy Bentham, 1747-1832)

J.ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』1789年

J.Bentham, An Introduction to the Principles of Morals and legislation, 1789



### (1) 苦痛と快楽

「自然は、人間を二人の主権者の支配のもとにおいた。苦痛と快楽である。それらこそが、われわれが何をしたいかを決定するだけでなく、何をすべきであるかを指示するのである。一方で正しさと誤りとの基準、他方で原因と結果との関連が、それらの玉座につながれている。」(ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』序文)

### (2) 経験主義

「立法におけるごとく道徳においても、功利の原理(功利主義)は、人間の悩みと喜び、苦痛と快楽とを正邪の唯一の源泉および証左と見なす考えを支える原理である。苦痛と快楽とを生み出す人間行動の性向の、そのあらゆる態様を観察するには、経験によるのであり、そしてただ経験のみによるのである。」(ベンサム『訴訟証拠の理論』『ベンサム著作集』vi, p.238)

### (3) 動物も苦痛を感じる

「人間以外の動物たちが、暴政の手によっておしとどめることのできない諸権利を獲得する時がいつかくるかもしれない。皮膚の色が黒いからといって、ある人間にはなんらの代償も与えないで、気まぐれに苦しみを与えてよいということにはならない。・・・同様に、いつの日か、足の本数や皮膚の毛深さがどうであるから、あるいは尾の有無がどうであるからといって、ある感覚をもった生きものをひどい目にあわせてよいということにはならないということが確認される時がくるかも知れない。いったいどこで超えられない一線をひくことができるのだろうか。・・・問題となるのは、理性をはたらかせることができるかどうか、とか、話すことができるかどうか、ではなくて、苦しむことができるかどうかということである。」(ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』17章)

### (4) シンガーによる功利主義的動物愛護論

「この文章の中でベンサムは、平等な配慮を受ける権利を当事者に付与する決定的に重要な特質として、苦しむ能力をあげている。苦しむ能力ーもっと厳密には、苦しんだり幸福を享受したりする能力ーは、言語や高等数学のようなその他の能力とはちょっとちがう。・・・私たちは苦しんだり楽しんだりする能力をもつすべての生き物の利益を考慮しなければならないという主張によって、ベンサムは、理性や言語をもつことが線引きの根拠になると考える人びととはちがって、誰(あるいはどの動物)の利益をも決して恣意的に考慮から除外しはしないのである。」(P.シンガー『動物の解放』28-29頁)

### (5) 最大多数の最大幸福

「正しいか間違っているかの尺度は、最大多数の最大幸福である。」(『統治についての評論および断片的叙述』p.393)

### (6) H.L.A.ハートの解釈

ベンサムは「壮大なスケールの費用＝便益計算の専門家」である。

### (7) 自愛的利益の優越

「人間全般の趣として、またあらゆる人間の胸中において、自愛的利益が、他の利益全部を合わせたものよりも優越している。」(『ベンサム著作集』ix, p.5)



### ミシェル・フーコー (Michel Foucault 1926-1984)

コレージュ・ド・フランス教授 ポスト・モダンの代表的哲学者  
「エピステーメー」(ギリシア語で「知」を意味)

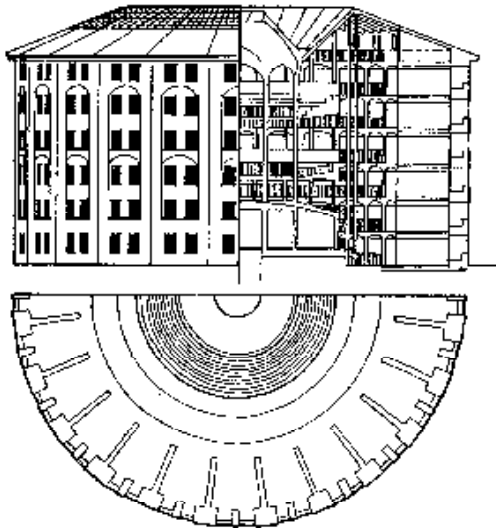
その時代ごとに人々は、無意識に特定の知の構造に従って  
思考している

『監獄の誕生』1975年

権力は、露骨な暴力をともなって発動されるのではなく、  
我々の内面から我々自身を支配するように作用する。

→ベンサムの「パノプティコン」が典型

### パノプティコン



### (8) 制度設計が大切である (ディンウィッディの解釈)

「ベンサムは責任ある人はみな、最大幸福原理が社会全体を管理すべき原理であることを認めるであろうと考えたが、各個人が自分の幸福の極大化以外のことを目標とするなど期待はしなかった。・・・つまりあることをすることがその人の利益だと示し得ない限り、あるいはその人の利益にし得ない限り、そうすることが義務だと説くのは、無意味なのであった。・・・そしてある個人の行動が社会的見地から評価して功利(最大幸福原理)の命ずるところと衝突する限り、そのことが主として意味するのは・・・かれの行動を規定した社会制度およびその他の要因が悪いのであり、可能な限り是正してそれ以外の行動の動機をかれに与えるようにすべきである、ということであった。」(ディンウィッディ『ベンサム』訳 48-49 頁)

### (9) 生存の保障は国家の義務→ナショナル・ミニマムの先駆?

「貧困者ということでは貧困者がもつ権利は、所有者ということでは余剰物を所有する所有者の権利よりも強力である。なぜなら、放置された貧困者に最後には降りかかる死の苦痛は、富者の余剰物の一部が彼から取り上げられた場合よりも、常にはるかに大きな悪であろう。」(『ベンサム全集』I, p.316)